



「令和7年度のスタートに」

新年度が始まりました。

桜の花びらが舞う中、県内の各小・中学校では、進級、入学に胸を躍らせている子供たちを迎える準備に万全を期していることと思います。

新規採用教職員359名（小学校204名、中学校155名）の皆さんを愛媛の教職員としてお迎えできたことを、うれしく、そして心強く思います。皆さんがこれまでに歩んできた道は、それぞれ異なりますが、今、皆さんは、同時に愛媛の教職員としてスタートを切りました。

これから、新しい道を歩み始めるに当たって、心に留めておいてほしいことをお伝えします。

『ありがとう』を大切にする

「ありがとう」という言葉は、一番美しい言葉だと思っています。古語の「有り難し」を語源として「有ることが難しい＝めったにない」という意味をもつ「ありがとう」の反対に当たる言葉は「あたりまえ」と言われています。「ありがとう」という言葉を一日に何回使えるかは、日常生活の中の「あたりまえ」と感じていることに、どれだけ心に向けることができるかではないかと思います。目の前にいる子供たちにも、たくさんの「ありがとう」の気持ちを抱いてください。

「よい先輩の真似をする」

皆さんのまわりには、校長をはじめ、たくさんの先輩教職員がいます。真似をするのは恥ずかしいことはありません。自分のロールモデルとなる人物を早く見つけ、真似をすることから始めてください。しかしながら、どんなに真似をしても同じことはできない、良くも悪くも同じ結果にならないということを、理解しておきましょう。良い結果を導き出したのは、自分らしさを発揮して取り組んだ成果と捉えましょう。

「授業で勝負する」

教員の皆さんにとっては、学校で最も長い時間を占めるのは授業です。子供たちに分かる授業をすることが大切です。しかしながら、分かる授業ができるようになるまでには時間がかかることを理解しておきましょう。基礎のないところに応用は生まれません。今できる精一杯の授業ができればよいのです。教職の魅力を感じながら、「愛顔」いっぱい学校生活を送る皆さんの姿が、子供たちの未来を切り拓きます。

皆さんの姿は、目の前にいる子供たちのロールモデルとなります。皆さんが、子供たちの成長を間近で見られる喜びをかみしめながら、力強く歩み続けることを期待しています。

